

いわき新時代へ

考察

市民参加でうねりを

日ごろからの備え重要に



内田 広之さん

「このビルの垂直避難場所は、地区の皆で共有しよう」といった熱い議論が、この一年間で、広く、いろんな集会所で展開されてきたのです。

また、岡山県倉敷市では、一昨年の中国地方豪雨で、死者五十一人と甚大な被害を受けました。私もご縁があり、岡山県の支援にかかわってききました。

同市では、一次は、逃げ遅れゼロ」という高い目標を掲げ、各地の集会所で次の災害時に向けた「行動計画」を、市役所と住民とでワークショップ形式で議論を重ね、若者から高齢者まで、スマートフォンアプリのLINEでつながり合い、防災情報を瞬時に交換し合う仕組みを作りました。

LINEでつながり合った若者から高齢者まで、日々、

災害時のシミュレーションをしているのです。

「いわき市の「防災士」の力は財産」
さて、いわき市には、「防災士」という公的資格を持つ方が、七百十八人もおられます。これは、とても多い人数で、大きな力になるでしょう。「防災士」は、平時には災害時の危険を考えた計画づくり、防災の講演、避難所づくりの想定訓練の支援をします。実際の災害では避難所運営や、被災者支援をリードします。「防災士」の力は、いわき市の大きな財産です。

そこで、「共助」の考えに立つとき、これからは、例えば「防災士」がコーディネートとなり、郡山市や倉敷市のような動きを、巻き起こしていくことが考えられます。どんなに立派な防災計画でも、市民全体が「自分ごと」で行動するか、または、イメージできないものです。だからこそ、そうした市民に根のある、市民参加型の議論の「うねり」を作ることが重要なのです。

共助への動き

一昨年の西日本豪雨、昨年の台風19号、十月二十五日の豪雨など、全国的に、大規模豪雨災害が広がっています。こうした災害への「備え」として、いくつかの自治体で特筆すべき動きが見られます。それは、「共助」、つまり、次の災害に向けて、市民一丸となって、共に助け合おうという「うねり」です。これらは、とても参考になる動きです。

具体的な他市の事例を紹介します。福島県内の郡山市は、台風19号の被害を受けて、「気候

変動対応都市」への転換を掲げました。そして、この一年間、市役所が首頭を取り、市民全体が、集会所で議論を重ね、大雨・洪水による「浸水氾濫マップ」「入水マップ」「垂直避難マップ」の三点セットを一枚にまとめた地図を、地区ごとに作り上げています。市役所職員が各地区の集会所で、住民とのワークショップを通じ、市民全体を巻き込んで、そのマップを策定しました。その過程で、市民からは、「いざとなれば、俺が近所の誰さんを救おう」とか、

を実現するのか③実際の災害時には、いつ、誰がその要支援者を救い出すのか――などを話し合っておくことが、次の災害で甚大な被害を食い止めるには欠かせないのです。

【平時の準備の大切さ】
こうしたことを、平時に、どこまで準備できるかが、災害時の結果につながります。なぜなら、災害になれば必ず想定外のこと（例：想定外の個所の川の氾濫、想定外エリアでの広域の停電・断水、想定外の感染症の拡大など）が起きるからです。

災害という「極限」の状態では、想定外の難しい事態に、皆が集中できるよう、逆に想

【平時の準備の大切さ】

定内のこと、日ごろから、「備え」をしておくことが重要なことです。これら想定内のことへの「備え」が、平時にどれだけ出来ているかで、災害時の成果が決まると言っても過言ではないでしょう。

市役所の職員、防災士、そして、市民全体が一丸となつて、平時からの災害への対策を熱く議論しつつ作り上げている郡山市や、倉敷市の事例は、とても参考になると考えています。

（福島大学理事・事務局長、東日本国際大学客員教授・内田 広之）

【何を議論すべきか】

そうした市民参加型の議論には、どんなテーマがあるのでしょうか。

例えば、台風19号では、高齢者や障がい者等のいわゆる「要支援者」が逃げ遅れたケースが全国的に報道されました。それをどう防ぐかという難題がテーマの一つです。実は、災害対策基本法では、そうした要支援者を予め名簿に記載し、「いつ、誰が、どのように」要支援者を助けるべきか決めておくことになっています。

想定外事態に集中

しかし、福島県全体でも約四割しか名簿登録が出来ていないのです。残りの六割の方は、周囲からの生活実態の把握が難しいため、周りからの助けが遅れ、致命的な被害を被ることが多いのです。

この解決のためには、防災士、市役所職員、地域の市民などが一緒に、①この地区では、何割の要支援者が名簿登録されていないのか②いつまでに、誰がどのように一軒一軒回り、一〇〇%の名簿登録



「二万が一」に備えて、日ごろから一連の訓練を行っている。左は福島総合病院、右とは関係ありません。

執筆者

うちだ・ひろゆき

いわき市出身。草野小・中、磐城高、東北大教育学部卒、東京大学大学院修了。1996（平成8）年4月に文科省入省。文科省の教育改革推進室長などを経て、昨年4月より福島大学理事・事務局長。現在、東日本国際大学客員教授、「第7次福島県総合教育計画策定懇談会」の座長も務める。48歳

【趣味、家族】

妻と高校2年の長男との3人家族。趣味は、剣道。現在4段で、この秋に5段にチャレンジ。文科省の剣道部で活動

株式会社 佐藤部品商会

流通センター営業所：いわき市常盤西郷町鏡田107
TEL0246-88-6775 / FAX0246-72-1387

総務部：いわき市常盤西郷町鏡田107 TEL88-6775
小名浜営業所：いわき市小名浜西町5-4 TEL54-6262
平営業所：いわき市内郷御殿町4丁目59 TEL27-6200
西倉営業所：いわき市平泉崎字砂田56 TEL34-5413
須賀川営業所：須賀川市森宿字辰根沢158-3 TEL(0248)94-4601
ときわ出張所：いわき市常盤水野谷町諏訪ヶ崎89 TEL43-2275
本宮出張所：本宮市荒井字青田原1-522 TEL(0243)34-6770
りびと/タイマ事業所：いわき市常盤西郷町鏡田107 TEL88-6771